

平成19年度畑作関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年12月4日(火)～5日(水)に東京ガーデンパレスにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者46名、委託関係者36名ほか、計117名の参集を得て、除草剤の作用性試験15薬剤、適用性試験31

薬剤、及び生育調節剤作用性試験1剤、適用性試験2剤について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成19年度 畑作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの										
薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
AC-263液 イマザモックスアンモニウム塩 0.85% [BASFアグロ]	小豆	継								・効果、薬害の確認
AH-01液 グルホシネートPナトリウム塩 11.5% [明治製菓、北興化学工業]	大豆	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南		・地域拡大
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期				・作物に飛散ないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
	小豆		一年生雑草	茎葉	耕起または播種8日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南		・播種前処理での薬害の確認
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期				・作物に飛散ないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
	菜豆		一年生雑草	茎葉	耕起または播種7日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南		・播種前処理での薬害の確認
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期				・作物に飛散ないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
かんしよ	一年生雑草	実・継	茎葉	耕起または播種8日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南		(作用性) ・播種前処理での薬害の確認	
		茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期	・作物に飛散ないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する						

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
AH-01液	ばれいしょ	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉	植付後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	100～200mL <水量100～150L>	全土壌	全域		・畦間処理拡大
	こんにゃく	実・継	一年生雑草	茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南	・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	・植付後萌芽前処理での効果、薬害の確認 ・畦間処理での年次変動の確認
	そば	継								・効果、薬害の確認
AK-01液 グリホサートイソプロピルアミン塩 41% [TAC普及会]	大豆	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉	耕起または播種10日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～50L>	全土壌	東北以南	・専用ノズルを使用する	・播種後出芽前処理での効果、薬害の確認 ・畦間処理での効果、薬害の確認
	小豆	継								・効果、薬害の確認
	大豆	継								・効果、薬害の確認
AKD-7163プロフル 既知化合物 40% [アグロカネショウ]	どうもろこし (食用、飼料用)	継								・効果、薬害の確認
	ばれいしょ	一								(作用性)
AL-513乳 アラコロール 30%、リニロン 12% [日産化学工業、デュボン]	大豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	400～600mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		・北海道での年次変動の確認
	菜豆	継								・効果、薬害の確認
	どうもろこし (飼料用)	継								・効果、薬害の確認
	どうもろこし (食用)	継								・効果、薬害の確認
	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
ANK-553(改)乳 ベンディメタリン 30% [BASFアグロ]	トリカブト(薬用)	継								・効果、薬害の確認
BAS-3510(Na)L 液 ベンタゾン(ナトリウム塩) 40% [BASFアグロ、住友化学]	大豆	実・継	一年生広葉雑草	茎葉	大豆2葉期～開花前 広葉雑草生育初期(6葉期まで)	100～150mL <水量100L>	全土壌	全域	・気象条件によっては一過性の薬害を生じることがある ・品種によっては薬害により減収する場合があるので、使用にあたっては使用前に公的指導機関の指導を受けること ・アカザ科、ヒユ類、トウダイグサ科等には効果が劣る ・体系処理: イネ科雑草に有効な除草剤を使用する	・北海道での畦間処理拡大
			茎葉 (畦間)	生育期 広葉雑草生育期	300～500mL <水量100L>		東北以南	・アカザ科、ヒユ類、トウダイグサ科等には効果が劣る ・体系処理: イネ科雑草に有効な除草剤を使用する ・作物に飛散しないように散布する ・雑草3～6葉期に散布する		

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		
BAS-3510(Na)L 液 ヘンタゾン(ナトリウム 塩) 40% [BASFアグロ、住友 化学]	菜豆 (大正金時)	実・継	一年生広 葉雑草	茎葉	菜豆初生葉 展開期～本 葉抽出始期	50～ 120mL <水量 100L>	全土壌	北海道	・葉害により5%程度減収する 場合がある ・イネ科に有効な土壌処理 剤と組合せ	・東北以南への地域 拡大
	菜豆					50～70mL <水量 100L>			・アカサ科、ヒヨ類、トウダイクサ 科等には効果が劣る ・体系処理:イネ科雑草に有 効な除草剤を使用する	
BAS-656乳 シメタナト-p 64% [BASFアグロ]	とうもろこし (飼料用)	-								(作用性)
	とうもろこし (食用)	-								(作用性)
	てんさい(直 播)	-								(作用性)
	てんさい(移 植)	実	一年生イネ 科雑草	土壌	定植後 雑 草発生前	75～ 120mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	北海道 全域		
CG-119 α 乳 S-トラクロル 82% [シンジェンタ ジャパ ン]	とうもろこし (飼料用)	実	一年生イネ 科雑草	土壌	播種後出芽 前 雑草発生前	70～ 100mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	北海道	・広葉雑草(特にアカサ科) には効果が劣るので、イネ 科雑草優占圃場で使用する こと ・有機物の多い土壌や粘 土質の土壌では所定範囲 内で多めの薬量を散布す る	・とうもろこし出芽始 ～摘期処理での効 果、葉害の確認
	とうもろこし (食用)	継			とうもろこし 1～2葉期、 雑草生育期 (イネ科雑草2 葉期まで)					
			一年生雑 草		播種後出芽 前 雑草発生前	70～ 130mL <水量 100L>		東北以南		
	てんさい(直 播)	-								
DCMU水和 DCMU 78.5% [デュボン]	さとうきび (株出) (春植) (夏植)	実	一年生雑 草	土壌	植付覆土後 または培土 後	100～ 150g <水量70～ 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	全域		
			一年生広 葉雑草、ア ワキセンゲン グサ、ムラサキ カタハミ	茎葉	生育期 雑 草生育期(草 丈15cm以 下)	100～ 150g <水量 100L>			・新植では、生育、分げつ 抑制が生じることがある	
DPX-16顆粒水和 チフェンスルフロンメチル 75%	とうもろこし (飼料用)	-								(作用性)
	春播小麦	継								・効果、葉害の確認
Hoe-866液 グルホシネート 18.5% [バイエル クロップサイ エンス]	大豆	実・継	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期	300～ 500mL <水量100 ～150L>	全土壌	東北以南 全域	・作物に飛散しないように 散布する ・雑草の草丈30cm以下で 散布する	・北海道での年次変 動の確認
	小豆	継								・効果、葉害の確認
	菜豆	継								・効果、葉害の確認
	ばれいしょ	-								(作用性)
	そば	継								・効果、葉害の確認

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
HSW-071乳 IPC 25%、既知化合物B 5% [北海三共]	小豆	-								(作用性)
MCP-Na液 MCPAナトリウム塩 19.5%[2,4-D協議会]	春播小麦	実	一年生広葉雑草	茎葉	春播小麦5葉期 雑草生育初期(広葉雑草5葉期まで)	200～300g <水量25～100L>	全土壌	北海道～北陸全域	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	
MW-851液 ピアラホス 18% [明治製菓]	大豆	実	一年生雑草	茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期	300～500mL <水量100～150L>	全土壌	東北以南全域	・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈20cm以下で散布する	
NBA-961顆粒水和 メタトロン 70% [北海三共、マクテシム・アガン・ジャパン、日産化学工業]	てんさい(直播)	実	一年生広葉雑草	茎葉	てんさい2葉期以降 (雑草発生始～揃)	250～350g <水量50～100L>	全土壌	全域	・シロサ、ハコベは葉齢が進むと効果が劣る場合がある	
NC-360フロアブル キザ'ロホップ'エチル 7% [日産化学工業]	かんしょ	継								・効果、葉害の確認
NC-362水和 シフルフェニカン 4%、IPC 30% [日産化学工業]	春播小麦	実	一年生雑草	茎葉兼土壌	小麦1～3葉期 雑草発生始	120～200g <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・一過性の白斑が生じることがある ・低葉量では効果が劣ることがある	
NC-622液 クリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	小豆	継								・耕起または播種前、播種後出芽前、畦間茎葉処理での効果、葉害の確認
	菜豆	継								・耕起または播種前、畦間茎葉処理での効果、葉害の確認
	とうもろこし (飼料用)	実	雑草全般 (スギナを除く)	茎葉	播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)	200～500mL <水量25～100L>	全土壌	東北以南	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	
						200～400mL <水量50L>		北海道	・専用ノズルを使用する	
	かんしょ	実・継	一年生雑草全般	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下)	200～500mL <水量25～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	・播種直前処理での葉害の確認
	ばれいしょ	実	一年生雑草	茎葉	耕起または植付前 雑草生育期(草丈30cm以下)	200～500mL <水量25～100L>	全土壌	東北以南	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する	

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用標準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		
NC-622液	そば	実・継	雑草全般 (スキヤを除く)	茎葉	耕起または 播種前 雑 草生育期(草 丈30cm以下)	200～ 500mL <水量25～ 100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の 場合は専用ノズルを使用す る	・北海道での年次変 動の確認 ・播種直前処理での 被害の確認
	さとうきび (耕起または 植付前)	実	一年生雑 草	茎葉	耕起または 植付前 雑草生育期 (草丈30cm 以下)	200～ 500mL <水量25～ 100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の 場合は専用ノズルを使用す る	
			多年生雑 草			500～ 1000mL <水量25～ 100L>				
	さとうきび (畦間処理)	継								・処理時期と被害に ついて
	さとうきび (圃場周縁)	実	一年生雑 草	茎葉	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)	200～ 500mL <水量25～ 100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の 場合は専用ノズルを使用す る	
			多年生雑 草			500～ 1000mL <水量25～ 100L>				
NC-624水和 既知成分A 25% 既知成分B 9% 既知成分C 1.5% [日産化学工業]	てんさい(移 植)	—								(作用性)
NP-55乳 セトキシシ' A 20% [日本曹達]	大豆	実・継	一年生イ ネ科雑草(ス ズメノカタビラ除 く)	茎葉	イネ科雑草3 ～5葉期	150～ 200mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使 用する ・体系処理: 広葉雑草対象 の土壌処理剤を使用する	・水量25Lでの効果、 被害の確認(北海道) ・イネ科雑草6～8葉期 での効果の年次変動 の確認
					イネ科雑草5 ～8葉期	200mL <水量 100L>		東北以南	・イネ科雑草優占圃場で使 用する ・体系処理: 広葉雑草対象 の土壌処理剤を使用する ・展着剤を加用する	
	てんさい	実	一年生イ ネ科雑草(ス ズメノカタビラ除 く)	茎葉	イネ科雑草3 ～5葉期	150～ 200mL <水量25～ 150L>	全土壌	北海道 全域	・イネ科雑草優占圃場で使 用する ・体系処理: 広葉雑草対象 の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の 場合は専用ノズルを使用す る	
NP-61乳 デフロキシシ' A 10% [日本曹達]	大豆	—								(作用性)
S-482顆粒水和 フルメオキシシ' N 50% [住友化学]	大豆	実	一年生広 葉雑草	土壌	播種後出芽 前 雑草発生前	5～10g <水量 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	全域		
SL-236(L)乳 フルメオキシシ' N 17.5% [石原産業]	大豆	実・継	一年生イ ネ科雑草(ス ズメノカタビラ を除く)	茎葉	生育期 イ ネ科雑草(3～5 葉期)	75～ 100mL <水量70～ 100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使 用する ・体系処理: 広葉雑草対象 の土壌処理剤を使用する ・高温条件では高葉齡のイ ネ科雑草に低薬量で効果が 劣る	・イネ科雑草5～8葉期 について、北海道で の年次変動の確認
					生育期 イ ネ科雑草(5～8 葉期)	100～ 200mL <水量70～ 100L>				
	ばれいしょ	継								・効果、被害の確認

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		
SYJ-100乳 フロスルホルフ 78.4% [シンジエンタ ジャパン]	とうもろこし	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	400～500mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	北海道		・東北以南での薬量と効果について
	ばれいしょ	実	一年生雑草	土壌	植付後萌芽前 雑草発生前	400～500mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	北海道 全域		
YH-650フロアブル ピラクロニル 3.6% [協友アグリ]	ひえ(食用)	継								・効果、薬害の確認
ZK-122液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジエンタ ジャパン]	大豆	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉	耕起または播種7日以前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～50L>	全土壌	全域 (北海道を除く)	・専用ノズルを使用する	・低薬量かつ低水量での、効果の年次変動の確認
					播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量50～100L>			・大豆の発芽開始後は、薬剤が直接触れると薬害が発生することがあるので注意する。 ・少量散布(50L)の場合は専用ノズルを使用する。	
			茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期	250～500mL <水量25～50L>	・作物に飛散しないように散布する ・専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で使用する				
	小豆	継								・効果、薬害の確認
	菜豆	継								・効果、薬害の確認
	とうもろこし (飼料用)	実	雑草全般 (スキヤを除く)	茎葉	播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)	200～500mL <水量25～50L>	全土壌	東北以南	・専用ノズルを使用する	
200～400mL <水量50L>						北海道				
かんしょ	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または植付7日以前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～100L>	全土壌	全域	・少量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	・植付前処理での薬害について	
ばれいしょ	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または植付前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～100L>	全土壌	東北以南	・少量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	・植付前処理での薬害について	
				植付後萌芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～50L>					北海道

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
ZK-122液	さとうきび	継								・耕起または植付前、畦間処理での効果、薬害の確認
	陸稲	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	・播種直前処理での薬害について
	そば	実・継	雑草全般(スギナを除く)	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	・播種直前処理での薬害について
	あわひえ(食用)	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL <水量25～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。	・効果、薬害の確認 ・水量100Lでの年次変動の確認
	ホップ	実・継	一年生雑草	茎葉(畦間)	生育期 雑草生育期	250～500mL <水量25～100L>	全土壌	全域	・作物に飛散しないように散布する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ノズルを使用する。 ・雑草の草丈30cm以下で使用する	・水量100Lでの年次変動の確認
アラクロール乳 アラクロール 43% [日産化学工業、日本農業]	とうもろこし (飼料用、食用)	実・継	一年生イネ科雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～400mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	寒地 北海道	・イネ科雑草優占圃場で使用する	・東北以南での使用時期拡大について
					とうもろこし～2葉期(イネ科雑草2葉期まで)					
					播種後出芽前 雑草発生前	200～600mL <水量100L>		寒冷地 東北～北陸		
		300～600mL <水量100L>	火山灰	温暖地、 暖地 関東以西						
	てんさい(直播)	一								(作用性)
トリフルラン乳 トリフルラン 44.5% [タウ・ケミカル日本]	大豆	実・継 (従来どおり)	一年生雑草(キク科、アブラナ科、カヤツリグサ科、ツクサを除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～300mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		・中耕培土後の、畦間・株間処理での効果、薬害の確認
				土壌(畦間)	中耕培土後 雑草発生前					
	移植大豆 (枝豆)	実・継 (従来どおり)	一年生雑草(キク科、アブラナ科、カヤツリグサ科、ツクサを除く)	土壌	定植前植穴掘前 雑草発生前	200～300mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		・中耕培土後の、畦間・株間処理での効果、薬害の確認
				土壌(畦間)	中耕培土後 雑草発生前					
		かんしょ(マルチ)	実 (従来どおり)	一年生雑草(キク科、アブラナ科、カヤツリグサ科、ツクサを除く)	土壌	植付前マルチ前 雑草発生前	200～300mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域	
	かんしょ	継								・効果、薬害の確認

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		
トリフルリン粒 トリフルリン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	大豆	実・ 継 (従来どおり)	一年生雑草(キク科、アブラナ科、カヤツリグサ科、ツクサを除く)	土壌 (畦間)	中耕培土後 雑草発生前	4～6kg	全土壌 (砂土を除く)	全域		・中耕培土後の、畦間・株間処理での効果、薬害の確認
	移植大豆 (枝豆)	実・ 継 (従来どおり)	一年生雑草(キク科、アブラナ科、カヤツリグサ科、ツクサを除く)	土壌 (畦間)	中耕培土後 雑草発生前	4～6kg	全土壌 (砂土を除く)	全域		・中耕培土後の、畦間・株間処理での効果、薬害の確認
リニユロン水和 リニユロン 50% [デュボン]	大豆	実・ 継 (従来どおり)	一年生広葉雑草	茎葉兼土壌 (畦間・株間)	生育期(本葉3葉期以降) 雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～200g <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域 (北海道を除く)	・専用ノズルを使用する。 ・噴口はできるだけ低くし、 本葉にかからないように散布する	・北海道での効果、薬害の確認
レナシル水和 レナシル 80% [デュボン]	かんしょ	実 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	植付後 但し、 植付7日後まで	100～150g <水量70～100L>	全土壌	全域		

B. 生育調節剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準						使用上の注意	継続の内容
			対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		
NGR-303粒 イソプロチオラン 12% [日本農薬]	かんしょ	実	鮮紅色促進・ 挿苗の発根促進	土壌混和	植付前	4～6kg	全土壌	全域		
エテホン液 エテホン 10% [2,4-D協議会]	春播小麦	—								(作用性)
AH-01液 グルホシネートPナトリウム塩 11.5% [明治製菓、北興化学工業]	ばれいしょ	実	茎葉枯凋 効果促進	茎葉	茎葉黄変始期～黄変期	100～200mL <水量100L>		北海道	・種芋栽培では使用しない	